

カリフラワー (アブラナ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
				タネまき	植えつけ						収穫

品種

- 〔極早生種〕 スノートップ、花月、白菊
 〔早生種〕 はくすい、福寿、スノークラウン
 〔中生種〕 スノードレス、クリスマス 初冬

栽培ポイント

冷涼な気候を好み、花蕾の元になる花芽は、ある大きさに育った苗が一定期間、低温に感応することによってできます。その後、早生種は15～20度、中生種は10～15度で花蕾が発育します。したがって、春まきよりも、花芽や花蕾が秋になってできる夏まきのほうが作りやすいわけです。

土は、特に好みはありませんが、なるべく連作を避け、アブラナ科の野菜を2～3年栽培していない、水はけのよい、肥沃な畑で栽培します。畝作りの1週間前に、苦土石灰を1㎡あたり2握りまいて、土をよく耕しておきます。

夏まき栽培は、高温期にタネをまくので日よけや乾燥に注意して、苗作りをしっかりと行い、35～40日の育苗で本葉6～7枚ののちりした苗に仕上げます。

草丈は収穫までかなり高くなるので、追肥後に、風に倒れないよう、十分に土寄せをします。

花蕾を純白に仕上げるには、日光や霜にあたらないよう、花蕾の直径が7～8cmになったころ、花蕾を外葉で包み、保護してやります。

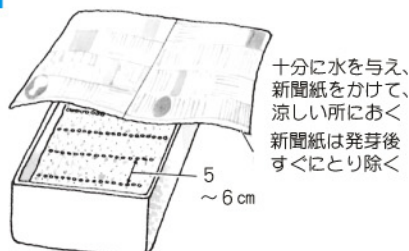
花蕾の直径が12～15cmに肥大したころ収穫します。

栄養

ビタミンB₁、B₂、Cをかなり豊富に含んでいます。ビタミンCは、花蕾よりも花茎のほうに2倍くらい多くふくまれています。

1 タネまき

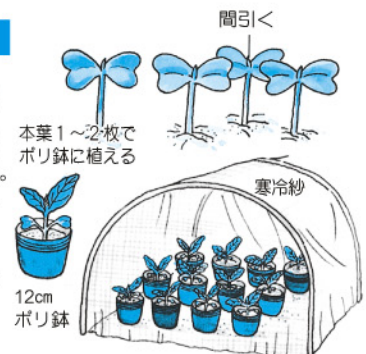
ポリト口箱に、床土（完熟堆肥1：土1の混合）を入れてタネをまく。タネは5～6cm間隔の条まきとし、3～5mmの厚さに覆土する。



十分に水を与え、新聞紙をかけて、涼しい所におく。新聞紙は発芽後すぐにとり除く。

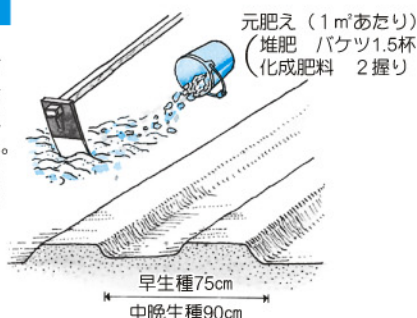
2 間引きと鉢上げ

発芽後、子葉が重ならないうちに、込んだところを間引き、本葉1～2枚のころ鉢上げし、35日～40日間育苗する。鉢上げ後、寒冷紗のトンネルをかけると、病害虫を防ぎ、日よけにもなる。活着後は、徐々に陽光を直接当て、苗を徒長させないようにする。



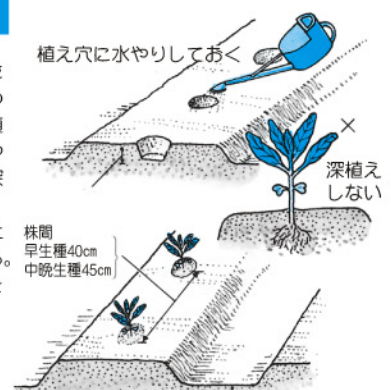
3 畝作り

植えつけの1週間前に、植えつけ予定地全面に元肥をまいて土にすき込み、畝を作る。中生種は、株が大きくなるので、畝間を広くとる。



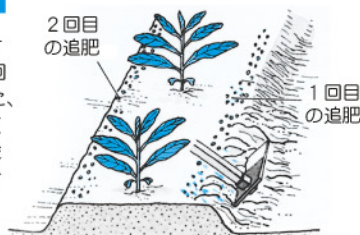
4 植えつけ

本葉6～7枚になった苗を植える。植えつけの2～3時間前に、植え穴にたっぷりと水をやり、苗にも水をやって深植えにならないように、根土の上に1cmぐらい土ががぶるぐらいに植える。植えつけ後、十分に水を与え、植え傷みを防ぐ。



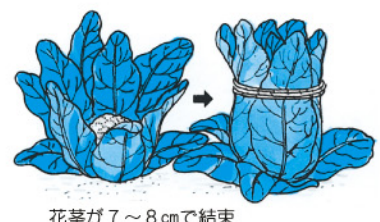
5 追肥・土寄せ

最初の追肥は、植えつけ15～20日後ぐらいに、2回目は本葉15～16枚のころに、化成肥料を1株につき軽く1握りずつ施す。追肥のたびに、中耕し、土寄せをする。



6 結 束

花蕾に光や霜が当たると黄色くなるので、純白に仕上げるために、外葉で包み、ひもで縛る。外葉結束後20～30日（栽培期間により、多少異なる）が収穫始めの目安。花蕾の直径が12～15cmになればよい。



主な病害虫

- ◆病気 苗立ち枯れ病、べと病、黒腐病
- ◆害虫 アブラムシ、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ